

令和2年度

市長と語る新成人のつどい



1月11日の「成人の日」には市内で約1,200人の若者が新しく大人の仲間入りをします。成人の日に先立ち、昨年11月2日に「市長と語る新成人のつどい」を開催しました。

本道教育部長の進行のもと、新成人たちが、市政についての質問・提言などを、身近な話を交え、千代松市長、奥教育長と熱心に語り合いました。その一部を紹介します。（敬称略・順不同）

◇あなたがもし市長だったら何をしたいですか？

（村井）

高校の英語の教員志望なので、関空も近く、英語教育をより充実させたい。また、ふとん太鼓やだんじり祭りなどの地域の伝統行事をしっかりと未来につなげていきたい。

（田中）

関空が近いという利点を活かして様々な国の人々を呼べるような大きなイベントがしてみたい。

（小西）

関空に近い地の利を活かし観光資源を積極的に開発したい。高齢者福祉や地域医療の充実、子育てがしやすいまちづくりを実現してみたい。



村井 昂輝

(左近)

相対的貧困と言われるような子どもへのサポートを充実させたい。また、若者世帯・高齢者・子どもが住みやすいまちづくりとともに、若者世帯が遊びに行きたいと思ってもらえるようなまちづくりをしたい。

(谷)

本市には関空があるので、航空会社と手を結び、海外や日本各地から多くの観光客が来てもらえるような政策をやってみたい。

◇泉佐野市に関して分からないこと疑問に思っていることについて

(田中)

現在、コロナ禍で海外の人が少なくなっている。以前は非常に多く、今後具体的にどのように展開していくか。

(市長) 新型コロナウイルス感染症の影響で、関空や市内の宿泊施設が大打撃を受けましたが、海外からの留学生、技能実習生の滞在なども含めて少しずつ動きが出てきました。これから東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ、2025年の大阪・関西万博と国際イベントが続きますが、市内では聖火リレーやホストタウン事業などの準備を進めてまいります。



田中 亮

(小西)

生活保護など受けている人に対して、どんなサポート・支援が行われているのか。

(市長)

国の基準に基づいた生活保護の支援策を実施するとともに、就労支援なども行っています。また生活困窮者の人たちにも自立して働けるような支援策、そして社会に順応できるような支援策も実施しています。

(左近)

若者が就職活動で東京・都市部に行ってしまうなど、本市が若者離れしないための取組について伺いたい。暮らしやすく活動しやすい「丸い社会」が理想だが、本市で一生暮らしていけるような取組はあるのか。

(市長)

若い世代が住み続けたいまちづくりは大きな課題です。本市では出産から子育てまで切れ目のないサービスをおこなっており、不妊・不育治療への助成、現在は幼稚園・こども園・小中学校の給食無料化なども実施しています。また総合住宅助成制度を設けて、本市への定住を促進しており、企業誘致を図って雇用の創出にも取り組んでいます。



左近 葵

(谷)

本市にはさまざまな施設が充実しているが、その中でも一番のPRポイントは何か。

(市長)

りんくうタウンには、地域の中核病院であるりんくう総合医療センターがあります。また、近年は学校教育施設の充実に力を入れており、災害時に避難所となる各小中学校の体育館にクーラーを設置したり、学校プールに浄化槽を付けて災害時に飲料水としても活用できるようにしたりしています。

(村井)

3年前「まちづくり政策コンテスト」に参加したが、その時、優勝したプロジェクトなどを政策に反映させたりしているのか。2020年からの学習指導要領が改定されたが、学校の現状はどうか。

(市長)

優勝した政策提案は、「ご当地ソフトクリームづくり」で、実用化に向けて取り組んでいましたが、様々な面でハードルが高く、「スイーツづくり」にシフトしたと聞いています。実現するのを楽しみにしています。

(教育長)

英語が5、6年生で教科化された学習指導要領ですが、コロナ禍で3月2日から全国一斉休校したため、始まったのは、6月中旬からです。実施に向けて周知徹底しています。またGIGAスクール構想では、最新技術のICTを利用し、子どもたちが1人1台の端末を持って学習していくということで、主体的、対話的で深い学びを実現していきます。

◇最後に。市長にやってもらいたいことは、何ですか？

(小西)

若者も住みやすいようにするため医療費だけでなく、さまざまな支援をお願いしたい。

(教育長)

若い世代への支援策として代表的なものとしては奨学金制度があげられます。奨学金は、高校、大学、専門学校等で利用していただけます。昨年度から新しく、高校の入学準備金、1人10万円を支給する制度を設けました。学びの公平性を保つために実施しています。



小西 杏奈

(左近)

PR動画を制作中であると聞いたが、プロモーションを通じ、若者が本市に来たくなるようなイメージ作りをお願いしたい。

(市長)

関空が開港して26年が経ちました。関空の対岸エリアのりんくうタウンでは、アウトレットの増築があり、さらに賑わいが出てきました。また関空アイスアリーナは、ナショナルトレーニングセンターにも選定され、次世代を担うアスリートの練習場にもなっています。本市に若者がより集うまちづくりは、今後も積極的に取り組んでいきます。

(谷)

日本の文化や大阪の文化を取り入れた大きな自然公園で、外国人に楽しんでもらいたい。市民の健康増進、リラックスできる環境を作ることによって、さらに住みやすい市にもっと近づけるのではないかな。

(市長)

上之郷には自然が豊かな泉佐野丘陵緑地があります。今後は、その周辺を整備して、より魅力あるエリアとしてまいります。



谷 直道

(村井)

今後もふるさと納税など財政を増やすことをお願いしたい。

(市長)

最高裁判所での勝訴で、ふるさと納税制度に復帰しました。そして泉佐野市内で、新しい地場産品をつくるために事業を始める企業に対し、ふるさと納税を活用した補助金制度も新たに創設しました。新しい地場産品が増えることを期待しています。

(田中)

アウトレットなどショッピングセンターもあるが、他の市町村から本市に来るようなレジャー施設があまりないので作ってほしい。

(市長)

民間のアイデアを活用して、調査などを行い、そのような施設の誘致もこれから計画したいと思います。

教育長の言葉

今回は、コロナ禍のため5名の参加となりました。しかし、みなさんのご意見、本市への提言もいただき、大変心強く、頼もしく感じました。また、市長のお人柄にもふれていただき、困難に立ち向かい、市民のために貢献されていく姿勢も感じていただけたかと思います。

このつどいを機に、泉佐野市にますます関心を持ち、誇りをいだいて、将来に向かって羽ばたいていかれることを願っています。本日は、ありがとうございました。



市長の言葉

新成人とのつどいは、毎回鋭い質問があり、私にとりまして緊張する時間です。しかし若い人たちの意見をじっくり聞くこともできる機会なので、有意義な時間でもあります。今年の新成人からは「パイロット」、「学校の先生」、「丸い社会づくり」など将来に対する夢を語っていただきました。これからその夢に向かってしっかりと歩みを進めてもらいたいと思います。



